

## 男女共同参画推進センターのホームページが新しくなりました！

センターのホームページが新しくなりました。トップページのデザインを一新し、見やすくしたことに加え、子育て世代の方々に向けた「みんなどうしてる？」や「イクメンたちのワークライフバランス」のコラムページ等、新しいページを追加しています。また、「各種刊

行物」や「ニュースレター」からセンターが発行している刊行物もご覧いただけます。さらに内容が充実したホームページをぜひ活用ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



## Topic 保活入門 その1 京都市の場合

「保活」とは、未就学の子どもを保育所に入れるために保護者が行う活動全般を指します（脚注1）。認可保育所の利用開始時期は年度の切り替わる4月が多く、希望された方は保活に苦労されたのではないのでしょうか。京都市を含め、自治体は認可保育所の利用を希望者に割り当てるのに、指数を設けて優先度判定を行っています。京都市では、今年度から指数の計算方法に大きな変更があったので、今回はこれを含め指数の計算方法についてお伝えします（脚注2）。

京都市では、指数は、まず乳幼児の保護者ごと（両親が揃っていれば父母別々）に基本指数と調整指数を合計し、その合計点数の低いほうが優先度判定に利用されます。

基本指数は、就労・介護・看護、就学・職業訓練等の各カテゴリーで該当する項目を選択し、合計することで決まります。調整指数は保護者の状況の他に、親族の介護やきょうだいを含む世帯の状況について該当する項目を選択し、合計することで決まります。調整指数では、通勤・通学時間が長い場合や育児休業からの復帰などは加算される一方で、保育ができる65歳未満の祖父母と同居していたり、65歳未満の親族に預けている実績があったりすると減算されます。

このうち、変更があったのは基本指数の「就学・職業訓練」のカテゴリーです。「就労」カテゴリーの上限が40点なのに対し、前年度までは「就学・職業訓練」のカテゴリーの上限が35点になっていましたが、今年度の改定で「就学・職業訓練」のカテゴリーの指数が引き上げられ、「就労」カテゴリーと同等に扱われることになりました。今まで片方の親が会社員で40時間以上就労していても、もう一人の親が学生ならばたとえフルタイムでも保育利用には不利だったのが解消されるため、これは大きな変化といえるでしょう。

なお、優先度判定の指数の割り当て方は自治体によって異なります。例えば大阪市では、就労は週40時間あれば100点ですが、就学はどんなに拘束時間が長くても60点が上限で、変更ありません（脚注3）。京都市以外の地

域での保活に関しては、各自治体のホームページなどを参考にしてください。

(文責 育児介護支援事業 WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

(注1)「保活」で検索すると、コトバンクや wikipedia の興味深い解説が見つかります。

(注2) 指数の算出方法は「保育利用申込みの御案内」でウェブ検索すると見つかります。残念なことに、京都市ホームページからリンクだけでこの情報に辿り着くのは困難なようです。

(注3) 博士課程院生の悲痛な声に対し、大阪市は配慮しないと明確に宣言しています。

<https://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/0000437959.html>

## ILAS セミナー「ジェンダーと社会」開講

落合 恵美子教授の令和元年度 ILAS セミナー「ジェンダーと社会」が4月から開講しました。前半は、授業テーマに関連する学生や講師を招いて、ジェンダーやセクシュアリティに関するフリートーキングを行い、後半はジェンダーに関する読みたい本を読んで文献の要約や見解をレジュメにまとめて発表し、全員でディスカッ

ションをする授業形式となっています。毎回様々な意見交換がなされています。

日程：4月8日(月)～7月22日(月)

時間：毎週月曜日 5限(16:30～18:00)

場所：男女共同参画推進センター会議室



## 懇話会セミナー

5月31日(金)12時15分から総合研究2号館2F第4演習室において、女性教員懇話会主催の懇話会セミナーが行われました。アジア・アフリカ地域研究研究科(ASAFAS)の子育て交流室(同館地下1F)の見学後、理学研究科の浅井 歩准教授より「最新の天体画像で解き明かす宇宙と太陽のひみつ」と題して講演がありました。浅井先生は、主に太陽活動やその歴史について話され、「ガリレオ・ガリレイは、黒点の観察記録によって太陽が自転していることを突き止めた」ことや、「太陽

の表面は水素爆発100万発程の大爆発が起こっており、放出されたガスは地球の磁場に影響を与える」という話では、参加者から驚きの声があがりました。



京都大学女性教員懇話会は、京都大学で研究する女性(教員・研究員・大学院生や学生を含む)のための自主組織で、教育研究環境向上のため、総会やセミナーなど様々な取り組みを行っています。詳しくは Web サイト (<http://kyotoufemale.blogspot.com/>) をご覧ください。

## 令和元年度保育園入園待機乳児保育室「ゆりかご」開室

学生、研究者の学業、研究と育児の両立を支援することを目的とし、「保育園入園待機乳児のための保育施設」（愛称ゆりかご）を設けています。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象としています。今年は4月3日（水）から開室しています。現時点で定員に迫るたくさんの申し込みをいただいております。利用希

望の方は、事前登録をした上で、自治体への保育園入園申請を行い、入室希望日の1か月前までにお申し込みください。



<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/nursery/>

## おむかえ保育

「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない…」などで困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を民間企業に運営委託をしています。保護者に代

わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行います。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/proxy/>

## 病児保育室「こもも」

病児保育室「こもも」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する学内施設です。京都大学病児保育室では、京都大学医学部付属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境におい

て、病児の保育を行っています。今年度より、受入対象を「小学校3年生」より「小学校6年生」に引き上げましたので、是非ご活用ください。



<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/sick/>

## ベビーシッター利用育児支援

男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ① ベビーシッター派遣事業
- ② 双生児等多胎児家庭育児支援事業

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/babysitter/>

## 令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者募集

令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者を募集しました。育児又は介護のために十分な研究・実験時間が確保できない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、女性研究者に限らず、育児・介護等に携わる男性研究者も対象となりま

す。今回の募集について、実験補助者の雇用期間は令和元年10月1日から令和元年3月末までです。

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛（g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/research/assistant/>

男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

## 連載：研究者になる！—第12回—

医学研究科・特定助教 三宅 可奈江

### ●幼少期の経験から医師を志すことに

自身の半生を振り返ると、私にとって「病気」は常に目の前に立ちだかる大きな壁でした。幼少期の頃に大病を患い、長い間通院・入院を繰り返す日々。また、医学研究者であった父が病気に倒れ、若くして他界しました。家族にとって何ともし難い苦難をもたらすのが病気であり、看護する母や家族の心配・不安は相当なものであったと記憶しています。

ただ、幸いにして、私の病は医療の進歩のお陰で劇的に改善するのです。高校生の時に私の人生の導となる医師に出会い、当時最先端であった治療を受けることができました。手術の可能性もあった状況でありながら、非侵襲的に半日で済んでしまった治療。医療技術の進歩の恩恵を身をもって感じた瞬間でもありました。

医療には限界もあるが、絶望を希望に変える力がある。そう確信した私は医師になることを志し、そして主治医の出身であった京都大学を目指すようになりました。

地元の岐阜県の公立高校を卒業した後、京都大学医学部に入学。そこで出会った友人達は個性豊かで、とにかく刺激を受ける毎日でした。医学部100人中、女子は約1割のマイノリティーでしたが、お互いを尊重できる関係で、学年全体も和気藹々とした居心地のよい場所でした。部活動はバドミントン部を選択。そこで、平日日中も部活に励む当時の京大らしい大らかな精神を学びました。

### ●研究テーマは画像診断

現存する最適な治療の恩恵を被るには正確な診断が大前提です。ですが世の中には多様な疾患があり、同じ疾患でも個人によって表現型も程度も様々なため、実臨床では速やかに正しい診断にたどり着くのはしばしば困難です。私は日進月歩の技術の詰まった画像診断で診断の道を追究することを決意しました。

画像診断はこの半世紀で急速に成長した医学分野であり、今や多くの疾患において主要な診断手法となっています。放射線科医は患者のマネージメントを支える縁の下の力もちとして重要な役割を担います。

私は医師となった最初の年から臨床、研究の両側面から画像診断に向き合ってきました。不器用な自分が両者を追求するのは平坦な道のりではありませんでしたが、随所随所で様々な方から温かいご支援や刺激を頂き、そ

の方針は変わらず今に至っています。これまで従事してきた研究の中で主なものに乳房専用PET装置の研究がありますが、米国スタンフォード大学への留学、そして核医学会での国際交友を深めるきっかけとなりました。

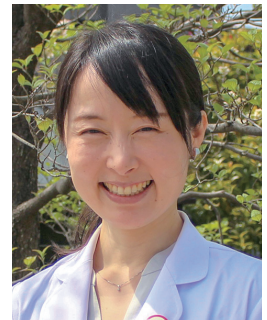
スタンフォードでは、研究業務に励ませて頂いたのはもちろんのこと、日本とは違う多様性のあるライフスタイルに大変感銘を受けました。家族構成も仕事のあり方も人それぞれ。お互いが多様性を認め合い、人との違いはidentityとして大切にす文化を感じました。米国の文化に引っ張られるように我が家も家族で行動する事が増え、どれだけ忙しくても個人や家族の存在を大切にす人生の在り方を学ぶ機会にもなりました。

### ●希望と夢と好奇心を持つこと

日本に帰ってから第2子が生まれ、今は臨床・研究・家事育児で多忙な日々を送っています。正直、全てをこなすのは大変で、疲弊してしまうことも多いですが、それでも前を向けるのは、やはり芯となる信念があること、そして周囲の助けのお陰だと思います。職場や家族の理解と協力があっての自分だと、日々痛感しています。最近子どもも大きくなり、労いの言葉をかけてくれるようになりました。一緒に過ごせる時間は短いですが、日々の成長が本当にありがたく思います。

これから社会に羽ばたかんとする女子学生の皆さん、選択肢が多くなったようで、まだ多様性の未熟な日本社会では、岐路に立たされた時にどの道を選択すべきか迷うことも多いと思います。そんな時は自分の信念に耳を傾けるのが一番ではないでしょうか。マズローの欲求5段階説によると、人間の最上位の欲求は「自己実現」だそうです。なりたい自分に向かってなら不思議と力が湧いてくるでしょうし、自己実現まで達成できたならばこの上なく満ち足りた幸せな人生になるかもしれません。私の周りにも沢山いますが、夢に向かって絶え間ない努力を積み重ねている人は素敵ですよ。

私の場合の自己実現は、家族全員が元気で、放射線科医として臨床も研究も頑張りたいという欲張りなものです。これからも医学の希望を現実にするべく精進していきたいと思っています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>